



2019. 5. 20

藤島高校図書委員会

読書界 5月号

テーマ「ゾッとする話」

『スクールカースト殺人教室』 堀内公太郎 新潮文庫

ある日、1年D組の教師が殺される。だが、その教師はクラスの女王に媚を売りカースト底辺はいじり倒すという素顔を持っていた。警察が捜査を行う中、次々と上位メンバーからのいじめが行われていく。二人、三人、、、死者が出てくる中、明かされるすべてを計画した”神”。

最近続編も発売されたスクールカーストシリーズ第一作目。

衝撃的な結末が読者をゾッとさせる物語。

1-3 龍 啓達

『江戸川乱歩傑作選』 江戸川乱歩 新潮文庫

鏡やレンズの収集が趣味の友人が、次第にその趣味をエスカレートさせていき、ついには破滅を迎える、猟奇的な鏡の描写が印象的な「鏡地獄」や、盗み目的で椅子に隠れた椅子職人の醜い男が、さまざまな人々と革越しに触れ合ううち、椅子の中の世界の虜になっていく不朽の名作「人間椅子」、四肢を失い口もきけない帰還兵の亭主に献身的に奉仕する妻が、共依存に陥りながらも嗜虐心を抱いた末に夫の両目を潰してしまう「芋虫」などの怪奇小説や、「D坂の殺人事件」などの本格探偵小説を含む、全9編を収録。

2-4 澤 茉倫

『憤死』 綿矢りさ 河出文庫

「小中学校時代の女友達が、自殺未遂をして入院していると噂に聞いたので、興味本位で見舞いに行くことにした。」 強烈なインパクトを放つこの一文から始まる物語は、筆者独自の世界観で人間の奇妙さを教えてくれる。読み手によって、この作品の印象は千変万化する。ぜひあなただけの解釈を見つけてほしい。

表題作に加え、収録作品は「おとな」「トイレの懺悔室」「人生ゲーム」の短編小説であるので、忙しい人、あまり小説を読まない人にもおすすめの一冊。

3-1 杉本峰香